

富山大学大学院 生命融合科学教育部 特別講演会

講師：鹿児島大学医学部 名誉教授

宮田 篤郎 先生



演題：下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化
ペプチド（PACAP）の発見から
臨床応用を目指して

日時：令和4年10月7日（金）16:00-17:30

場所：総合教育研究棟(工)・多目的ホール

下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ポリペプチド（PACAP）は、1980年代、TRH、GHRH、CRHなど向下垂体性視床下部ホルモンが次々と発見された後、さらに未知の視床下部因子を探索する過程において宮田先生が1986年に発見されたペプチドです。

本特別講演会では、PACAP発見の経緯から、神経栄養因子としての機能に着目し、アゴニストとしての脳卒中などの虚血性脳疾患や神経変性疾患の治療への応用を目指す一方で、神経伝達物質として痛覚伝達における機能を基盤とし、アンタゴニストによる難治性疼痛治療への応用を目指す研究について、お話をいただく予定です。

本講演会は、大学院医薬理工学環「薬理学・遺伝子工学特論」の第1回目の講義としても開催します。

多数の皆様のご来聴をお待ちしております。

連絡先：高崎一郎（工学部）

076-445-6875

takasaki@eng.u-toyama.ac.jp